

ゆり組



— 3学期の目標 —

- ◎友だちと気持ちを伝えあい、イメージを共有して遊びを進めていく。
- ◎活動の中で、自分らしさを発揮し頑張ろうとする。

— 活動内容 —

廃材遊び



(協同性・思考力の芽生え、数量・図形、文字等への関心・感覚、

言葉による伝え合い、豊かな感性と表現)

- ・ 作品展から廃材遊びが盛り上がっていた為、自由に工作を楽しむようになった。
- ・ 箱やパック等の廃材を置いておくと、作品展で作ったカメラを自分なりにアレンジしてもう一回作ったり、長く繋げて大きなロボットを作ったりする子どもが増えた。
- ・ 毎日工作をしていくうちに、素材によってのりかセロテープかどちらを使うのか、どのくらい使えばよいのか等、考えられるようになり、道具への興味も持ち始めた。
- ・ 画用紙の切れ繋げて端を工作コーナーに増やすことで、切ったものを繋げて絵を作る遊びも増え、工作の幅が広がった。
- ・ 自分でたくさんある素材の中から試行錯誤し、自由な発想で好きなものを作ることができるようになった。

こま回し



(自立心、協同性、思考力の芽生え、数量・図形、文字等への関心・感覚、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現)

- ・ 正月遊びから自分の力で回すことができるよう、自由遊びだけでなく昼食の後や帰りの会の後も自由に遊べる時間を作った。
- ・ こまを回せるようになると、逆さまや横で回す、落として回す、椅子の上の小さなスペースで回す等遊びに工夫が見られ始めた。
- ・ 友だちとどちらが長く回るか数えながら競争している子どももいた。
- ・ 回すことだけでなく、こまに色を塗り重ねて回した時に模様が変わるのを見て楽しんでた。
- ・ 回す向きによって手の動かし方が違い、手先の巧緻性を高めるとともに、回すことを楽しむ・視覚的に楽しむ・友だちとのかかわりを楽しむ等、子ども一人ひとりが様々な楽しみ方をする

— 3学期の反省 —

- ・ 毎朝外遊びをすることで、体を動かすことだけでなく、友だちとルールのある遊びをする時間も増えた。
- ・ 廃材遊びやひらがなに対する興味関心が増え、廃材を使った自由な工作やひらがなカードを動かして文字を作る等楽しみながら遊んでいた。
- ・ 特に鬼ごっこでのトラブルが増え、「自分ばかり鬼になる」と訴える子どもや、「鬼になったら抜けて入りなおす」ことが多くなり、始める前にルールの確認をする時間を設けるようにした。
- ・ 自分の言葉で気持ちを伝えることができるように、朝の会の時間に発表の時間を作った。その日のテーマごと（好きな動物：どこが好きか等）に自由に話すようにすると、日に日に子どもたちも自分の思いを好きなように話すようになった。

— 年間の反省 —

- ・ 言葉を覚えてきたため、口喧嘩や強い言葉を言うてしまうことが多かったが、日々の訓話や発表の時間を通して、お互いに自分の意見を言い、相手の意見も聞くことができるようになってきた。
- ・ 食事は、男の子同士が競争することが多く5分ほどで食べ終わってしまうことが多いため、よく噛んで食べるように話している。
- ・ 植物の生長や、行事の思い出・自由画など「本物を見て描く」「思い出しながら好きなように描く」「自分で考えたものを自由に描く」とたくさんの絵を描き、普段から自由に絵を描く時間が増えた。
- ・ 未だに早くしたいという気持ちから最後まで話を聞かないことがあるため、話した後に確認する時間を作ってきた。